
裸の裸王様

はらぺこ姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

裸の裸王様

【コード】

N2093Z

【作者名】

はらぺこ姫

【あらすじ】

ジャポン国の城下街には、夜中になると素っ裸の男が街を走り回るらしい。

いつの間にも彼は裸王と呼ばれ街で有名になっていた。

そして、彼の捕縛には莫大な賞金がかかっていて、それが目当ての賞金稼ぎ達が集まっているおかげで、城下街は栄えている。

当然、城下街警備隊も、捕縛に全力をあげているわけで。

そんな裸王と警備隊長のお話。

城下町の酒場にて（前書き）

あまり深く考えないでください。
考えたら…多分負けだと思えます。

城下町の酒場にて

いらっしやい。

こんな夜中に若い娘さんが珍しいね。

わしにも丁度あんたくらいの娘が居るんだけどさ、お嬢さんは他国の人がい。

だったら、わしが父親代わりに忠告しとくよ。

この城下街では、夜中に素っ裸の男が町中を走り回ってるから、若い娘さんは外に出ないほうがいい。

え？裸王の話なら知ってる？裸王捕縛の賞金目当てに来た魔法使いで、素っ裸の男なんか簡単に捕縛できる？そいつは頼もしい。

うちのカミさんですら、遭遇したくないから夜は外出しないんだがねえ。

何？女はいくつになっても恥らう乙女だって。

なるほど、そいつは知らなかったよ。

でも、お嬢さん、あいつのピア樽のような外見を知らないから言えるんだよ。

あいつを見たら、さすがの裸王も裸足で逃げ出すと思っただけだなあ。

うおっと。奥の台所から包丁が飛んで来た。アブねえ、アブねえ。

そうそう、お嬢さんが賞金稼ぎなら、まず、警備隊の詰め所で、許可証を貰うことをオススメするね。

お嬢さんだって、追いかけている最中に、警備隊の尋問受けたくないだろう？

それに許可証があれば、あちこちで裸王の情報提供してもらえるからな。

なんで、そんなに良く知ってるかって？

実はこの酒場に居る連中は皆、お嬢さんみたいに裸王捕縛の賞金目当てで滞在しているからさ。

ま、わしらにしたら、裸王様のお陰で商売繁盛、ありがたい存在なんだがねえ。

おっと、お嬢さんにそんな話はまずいな。

それよりか、なんで素っ裸の男が簡単に捕まらないか知りたくないかい？

もうそろそろ酒場に飲みに来る警備隊の奴らがくる時間だからな。

お、噂をすれば丁度いいところに。

誰か、このお嬢さんに裸王の話をしてやっておくれ。

隊長のつぶやき(前書き)

一応、主人公の登場です。

隊長のつぶやき

第3警備隊隊長である俺は、引き継ぎを終えた後、隊員達の待つ会議室へ向かっていた。

夜間担当の今日は、裸王と遭遇するチャンスであり、裸王を捕らえることが出来る日だ。

「隊長、お疲れ様です」「

副隊長を筆頭に隊員達が挨拶したところで、俺は本日の予定を地図を指差しつつ指示を出す。

「前回シュミレートした通り、A班とB班は、まず、第3地区に現れるであろう奴を大通りに追い込んでくれ、C班は、大通りに罠の設置し、追い詰めた奴をA、B班と、共に取り押さえる。D班、E班はその他の地区を巡回。もし奴がその他の地区に逃げ込んだ場合に備えて散らばっておけよ。詳細な部分は各班長に任せるが、何かあったら俺は大通りにいるから指示を上げ。そうそう、最後に、裸王を捕らえるのに夢中になって、他の犯罪を見逃すな。そのときは、文字通り俺達の首が飛ぶからな。判ったところで、解散！」

隊員たちが散ったところで、俺も夜の街へゆっくりと歩いていった。裸王には、彼なりのルールがある。

1、夜間担当の隊の地区にはじめに現れる。

俺達警備隊には、7つの部隊があり、それぞれ、城下町と同じ地区

に寮、もしくは住処がある。

例えば、俺達第三部隊は、第三地区に居住しているといった感じだ。

2、夜間10時から2時の間に現れる

理由はよくわからないがその時間に出没する。

3、裸王といっても本当に全裸ではない。

世間では、素っ裸のイメージ（そのほうが面白いから）な彼だが、実は一応、真紅のマントを羽織っている。

顔は羽マスクをしているので判らないが、スキンヘッドの2メートルを超えるマツチヨな男であることは間違いない。

ついでに、賞金稼ぎが来るようになってから、真っ白なふんどしをつけている。（確認済み）

要するに、俺達をおちよくっているのか自信の表れなのか。だが、上司から逮捕状が出ている以上、捕まえなくてはいけない。

賞金稼ぎに捕まったとあれば、俺達の沽券にも関わる。

さあこい。今日こそ俺が捕まえてやる！

本日の捕獲劇 その1

俺は、大通りにつくと、胸元から眼鏡を取り出す。

これは魔道具で、送信された画像を受け取ることが出来る、要するに、各班長もかけている眼鏡から見た映像がそのまま俺のかけている眼鏡で見ることが出来るという便利な代物だ。

おまけに、夜間でも昼間と変わらない状態で見ることが出来る。

最もこれは、試作品のため、一般には流通していない。

魔道具、というのはこのジャポン国の産業のようなもので、世界一のシェアを誇っている。

俺達のような魔力のない人間が使うことが出来るという利点があるものの、中に充電されている魔力が消費されてしまうと、新たに魔力を補充しなければいけないというのがネックで、お金のある人向けな感は否めないが。

最も、王宮付きの魔道具を専門に研究している奴らが開発しているため、俺達はモニターも兼ねて色々魔道具をつかうことが出来るりする。

「隊長、現れました」

同じく魔道具の通信機（ちなみにこちらは世界中で愛用者が居る）、から声がする。

「よし、作戦決行だ！」

声のした人物からの映像に切り替えると、赤い塊が、屋根から屋根を蚤のようにびよんびよん飛んでくるのが見える。どうやら、後ろを何人かの賞金稼ぎが追っているようだ。

しばらく飛び回った後、比較的開けた公園にある英雄の像の上に、彼は降り立った。

「ふはははははは、今日もカーニバルの開催だ！！！」

赤いマントをはためかせ、マッチョな肉体を見せ付けるように誇示しながら、ポーズをとり続ける彼に向かって、何人かの魔法使いが攻撃魔法を繰り出す。

地響きのような爆発音と、白い煙がもうもつと上がった。

「君達、備品を壊しちゃあ駄目だよなあ」

白い煙の中から、クククとのどを鳴らすように笑いながら、裸王が現れる。

彼のふんどしが白く光っているのは目の錯覚ではない。

神の加護とか、精霊の祝福とか呼ばれている類の布だ。

これは、魔法攻撃を無効化することが出来る。

ついでに言うと、俺達の制服もこの布が使われているが、ある一定以上の面積がないと全身を保護してくれないのが難点だったりする。

ちなみに彼の場合、その面積はどう見ても全身を保護するには足りていないので、ふんどしで受け止めたと思えない。どうやったのかは謎だ。

「悪い子にはお仕置きが必要だよなあ」

裸王が魔法使いに向かって歩いていく。

途中、裸王に向かっていく剣士っぽい賞金稼ぎが何人か、接触する前に吹っ飛ばされた。

裸王は、独特な体術が得意らしい。これも実証済みだ。

そして、魔法使いの首根っこを捕まえると、頭に頭突きを食らわせた。

「他に、悪い子はいねえか？」

おそらく、これを見ている俺に向かって、裸王は、悪の首領そのままの笑顔で、ニツと笑った。

本日の捕獲劇 その1 (後書き)

裸王、登場。

裸王は派手なことが好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2093z/>

裸の裸王様

2011年12月11日00時49分発行